

きのこでつながる人の輪

—「菌山街道」(10年目)を迎えて—

主事研究員 吉井 薫

かつて中国地方には、石見銀山で産出された銀を瀬戸内方面へ輸送する「石見銀山街道(通称：銀の道)」が存在した。江戸時代には正式に街道として整備され、鳥根県・広島県をまたいで山陽・山陰をつなぐ交通の要衝であった。

この旧街道を辿る形で、毎年10月に開催されているのが、きのこにまつわるイベント「菌山街道(きんざんかいどう)」である。活動は(10年目)を迎え、2025年10月18日、19日の2日間2県で45のイベントが開催された。広島県の瀬戸内から鳥根県に至るまでの複数拠点にて、趣旨に賛同した企業や団体が参加する。内容も多岐にわたり、きのこ関連のグッズや食品の販売、きのこ採取やレクチャーなども実施され、筆者も一部イベントへの参加機会を得たので、その様子を紹介する(第1図)。

1 マイスター試験から着想を得る

菌山街道の発案者であり、実行委員会の会長でもある藤原明子さん(以下、藤原さん)は、(一社)日本きのこマイスター協会(長野県中野市、以下マイスター協会)の理事であり、自身も認定スペシャルきのこマイスターとして活動している(注1)。藤原さんは広島県福山市の出身で、府中市にある母方の実家は明治から製粉業を営み、祖父の代には天然醸造による味噌や醤油の製造も行っていた。敷地には今も中庭を囲むように工場棟が残されており、味噌蔵には蔵付きの菌が息づく。現在藤原さんは、母屋できのこに特化したギャラリーカフェを運営している。食養の教えを受け

て育ち、健康や食、自然との関わりを身近に感じてきた藤原さんは、野菜ソムリエの資格を取得するなど知識の研鑽を続け、長年きのこに興味深く探究してきた集大成として、きのこマイスター資格に挑戦された。

最終段階のスペシャルきのこマイスター取得にあたり、「資格取得後に取り組みたい活動」をテーマとしたプレゼンテーション課題が課された。藤原さんは、地元の「銀山街道」ときのこを結びつけたイベント「菌山街道」を思いつかれたという。無事に資格を取得した藤原さんは、アイデア実現に向けて、現在に至るまで菌山街道の開催に尽力されてきた。

立ち上げに際して、日本きのこマイスター協会との共催をはじめ、きのこを『食べる! 学ぶ! 作る!』の理念に賛同する方々と実行委員会組織を編成した。国土交通省、県、自治体の協力も得て活動を続けるうちに、参加する生産者や各地のきのこマイスターやボランティアスタッフが年々増え、また認知度が向上するにつれて実現できるイベントも増加した。いまや全国でも他に類を見ない広域一大イベントとして成長した。

2 親子できのこに親しむ里山体験

初日のイベントの一つが、広島県三次(みよし)市甲奴町(こうぬちょう)で開催された「森ときのこの観察会」である。

当日は県内外の小学生や親子連れなど約80名が参加し、イベントは大いに盛り上がった。専門家の案内のもと、里山を1時間程度散策し(写真1)、参加者は思い思いにきのこを採取した。採取したきのこは一か所に集められ、専門家が名前のタグを付けて分類していく

第1図 菌山街道の開催地(2025年)



資料 実行委員ご提供資料を筆者加工



写真1 林間部での散策の様子



写真2 採取されたきのこ。青い付せんは可食、赤は人体に毒性あり、緑は毒性未確認。



写真3 きのが当選する福引が大盛況



写真4 人気のマッシュルーム収穫体験



写真5 恐竜きのこクイズレースで大疾走

(写真2)。子どもたちはその様子を興味深そうに見守り、食べられるきのこが見つかる歓声が上がった。同行された川上嘉章きのこアドバイザー(注2)によると、今回は夏場の気温が高かったものの、9月以降は雨に恵まれたため、多くのきのこが見つかったという。このほかにも初日から、各地できのこ関連グッズの販売や、元宿坊を会場にしたきのこ夜話など、多彩なイベントが開催された。

2日目は、国営備北丘陵(びほくきゅうりょう)公園の一角で、飲食やグッズ販売の出店が並ぶイベントエリアが設けられた。地元飲食店によるきのこ料理や、必ずきのこが当たる福引などが人気を集めた(写真3)。また、ユキグニファクトリー株式会社提供による培地を用いたマッシュルーム収穫体験(写真4)も行われ、培地いっぱい育てたマッシュルームの光景は、参加者の関心の的となった。

(注1)きのこの知識・栄養・機能性・調理・生産などを総合的に学ぶ民間資格であり、マイスター協会が実施する。ベーシックきのこマイスター(入門)、きのこマイスター(探求)、スペシャルきのこマイスター(専攻)の3段階がある。

(注2)きのこの知識を一般の人にわかりやすく伝える専門家で、日本特用林産振興会が養成する。平成9年度に開始され、全国で370名以上が活動。

(注3)写真はすべて筆者撮影

専門家が野山で採取したきのこを並べて解説するきのこ観察会にも多くの人が足を止めて盛況であった。終盤では、親子で恐竜の着ぐるみを着て競走し(写真5)、その後できのこの知識をクイズで競うレース大会も開催され、秋晴れのもと、沢山の笑顔がみられた。

会場では終日、多くの参加者が訪れ、主催者と来場者が一体となる温かな空間が生まれており、きのこへの親しみや愛着を育む場となっていたのが印象的であった。また、九州からの来訪者もあるなど、その活動の広がりも感じさせられた。

菌山街道は、藤原さんの情熱と尽力により支えられ、ここまで発展してきた。スタッフには、藤原さんの姿に共感し、関東や長野県からサポートに訪れる人も多い。一人のアイデアから出発し、多くの人々を魅了するイベントとなった菌山街道は、今年で11年目を迎え、今後のさらなる展開が注目される。最後に、本取材にあたりご協力いただいた藤原さんをはじめ、関係者の皆様に深く感謝を申し上げる。

<取材ご協力先、写真撮影先>

- ・菌山街道実行委員会会長、(一社)日本きのこマイスター協会理事、認定スペシャルきのこマイスター藤原明子様
- ・国営 備北丘陵公園

(よしい かおる)